令和７年度　国立吉備青少年自然の家教育事業
吉備ボランティア養成研修

１．事業の目的（趣旨・ねらい）

青少年の体験活動を支援するボランティアとして基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

２．事業の概要

（１）期日

令和７年６月１４日（土）～６月１５日（日）１泊２日

（２）参加者

①募集対象・人数

高校生、大学生（専門学校生を含む）及び社会人　４０人

②参加人数

１８人　（高校生　６人、大学生　１２人）

（３）講師等

講義「青少年教育における体験活動」
講師：青山　鉄兵　氏
（文教大学　人間科学部　准教授
国立青少年教育振興機構　青少年教育センター客員研究員）

講義・演習「自然体験活動の安全管理」
講師：河本　潤（国立吉備青少年自然の家　主任企画指導専門職）

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」
報告：法人ボランティア２人（国立吉備青少年自然の家）

講義・演習「ボランティア活動の技術」
講師：　八木　雄治（国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職）

講義「ボランティア活動の意義」
講師：福永　萌（国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職付係員）

講義「青少年教育施設の現状と運営」
講師：安達　拓人（国立吉備青少年自然の家　所長）

説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」
説明：　福永　萌（国立吉備青少年自然の家　企画指導専門職付係員）

（４）企画・運営のポイント

① 参加者の年齢、学校、性別が様々になるように班分けをすることで交流の幅を広げた。

② 直接広報を行う際にはより具体的なイメージを持ちやすくするために、職員だけでなく法人ボランティアの大学生と共に説明を行った。

③ ボランティアにアイスブレイクを担当してもらうことで、今後参加者がボランティアとして活動したときのイメージを持ちやすくした。

④講義・演習の「自然体験活動の安全管理」と「ボランティア活動の技術」については、ボランティアの立場としてかかわるときに、より役立つ内容を取り入れたり、多くの活動プログラムを体験したりしてもらえるような構成に変更した。

３．活動の内容等

（１）日程

６月１４日（土）		６月１５日（日）	
8:30	岡山駅発（送迎希望者）	6:30	起床・洗面・清掃
9:30	受付	7:15	朝のつどい
10:00	開講式	7:30	朝食
10:30	講義 「青少年教育における体験活動」	9:00	講義・演習 「ボランティア活動の技術」 （昼食含む）
12:00	昼食		
13:00	アイスブレイク	13:00	講義 「ボランティア活動の意義」
14:00	講義・演習 「自然体験活動の安全管理」	14:45	講義 「青少年教育施設の現状と運営」
17:15	夕べのつどい		
17:30	夕食	15:45	説明 「青少年教育施設における ボランティア活動
18:30	説明 「青少年教育施設における ボランティア活動	16:45	②」
19:30	①」	17:00	閉講式
20:30	入浴	18:00	解散
22:00	情報交換会（希望者） 就寝		岡山駅着（送迎希望者）

（２）活動の状況

【講義「青少年教育における体験活動」】

【アイスブレイク】

【講義・演習「自然体験活動の安全管理」】

【説明「青少年教育施設におけるボランティア活動」】

【講義・演習「ボランティア活動の技術」】

【講義「ボランティア活動の意義」】

【講義「青少年教育施設の現状と運営」】

【閉講式】

４．成果・課題

（１）満足度

満足：：８９％　やや満足：１１％

（２）参加者の声

①　どんどん役に立つことばっかりだったので満足です。

②　当たり前に思っていたことでもいざ詳しく分解して勉強してみると気づくことや注意しなければいけないことなどを改めて感じられて本当に良かったと思う

③子供の気持ちを考えて自分が味わえない体験がたくさんあり楽しかった。

④　職員の方々も、参加していた方々も良い人ばかりで苦な１泊２日ではなく楽しい１泊２日になったので良かったなと思います。

（３）成果

①　全員の参加者がボランティア登録を行うことができた。

②　班分けを工夫したことで、参加者の交流をより深めることができた。

③　講義・演習の内容を精査したことで、ボランティアとしてかかわった際に役立つスキルや内容について、具体的に考えてもらうことができた。

（４）今後の課題

①　多くの参加者が新規で法人ボランティアに登録し、教育事業に参加したいと意欲的になっている。しかし、教育事業の減少により彼らの活躍する機会が保証されていないため、教育事業以外でも活動の機会を設けるなどの対策をする必要がある。

②　直接広報を行っていた大学の中に、講義の中で広報を行っていたが、その講義の時期が変わっていたため広報が行えなかったところがあった。例年、多くの申込みがあった大学であったので、時期を２回に分けるなどの工夫を検討したい。

担当：企画指導専門職付係員　福永　萌